

◆ 3月号の天気コラム

春の花「椿」

各地でツバキの花が咲き始めています。气象台で開花を観測しているツバキは、ヤブツバキとよばれ、東北以西に自生します。椿は字のごとく、春に咲く花ですが、サザンカと掛け合わせたカンツバキは冬に咲きます。ヤブツバキは花びらが五～六枚の一重咲きで、散るときは花ごと落ちますが、カンツバキは八重咲きが多く、一枚一枚ひらひらと散ります。 (『日本気象協会編、アリス館』より)

◆ 会報閲覧室 (玉造連盟事務所)

『やまなかま』2018年2月号・No.600

泉州勤労者山岳会／57頁

毎月、各会から会報や府県連盟ニュースが連盟事務所に届けられています。この会報・ニュースは、いつでも閲覧できるように連盟事務所(玉造)の会報閲覧コーナーに置いています。いつでも是非ご覧ください。

今月は泉州勤労者山岳会の機関紙、今回は何と600号記念号でした。500号記念号が、つい先日のようです。機関誌600号を単純に計算をして、毎月発行を続けていけば「50年」もの歳月をかけたこととなります。余談ですが半世紀前といえば、私が大学生になった頃でした。記念号は平常の巻頭言・山行計画・あしあと(山行報告)・その他のページに、「600号記念誌に寄せて」として30名の会員が38ページ分に山への想いを寄稿していました。なかでももっとも興味を引かれたのは、「今までに一番印象に残っている山」のコーナーでした。その一番印象に残った山の原稿を、個人的に選ばさせていただくと…冬山合宿・越百山のラッセルに大苦戦、北緯68度ロフォーテン諸島、遭難寸前の前穂下山道迷い雪中ビバーク、ガイドなしで登攀したマッターホルン、初級登山教室終了山行の立山縦走でした。600号記念号、30名の山への想いを是非お読みください。

◆ 1月、この一冊を 『平和ってなんだろう

…「軍隊をすてた国」コスタリアから考える』(足立力也、岩波ジュニア新書)

今、世界で一番行ってみたい国はコスタリカ。コスタリカは中央アメリカ南部に位置する人口486万人の小さな国で、1949年に常備軍を廃止する憲法を成立させました。その軍事費に相当する費用は社会福祉や医療・教育にもあてることができ、今では中南米で政治的にも経済的にも最も安定した国となっています。高度な医療や義務教育、さらに国立の高等教育までも無償化を実施、豊かな人材を輩出させ、コスタリカの内外で活躍している人も多く見かけます。また、国土の4分の1が国立公園や保護区に指定され、貴重な熱帯の動物や植物がたくさん見ら

れる、自然豊かな国でもあります。コスタリカでのエコツーリズムも盛んで（エコツーリズムはコスタリカが発祥）、世界中から大勢の人がやってきています。民主主義が浸透し、教育や環境保護に熱心な国民性のコスタリカを調べてみたいと考えて探した最初の一冊がこの本でした。

なお、昨年春から上映されてきている「コスタリカの奇跡～積極的平和国家のつくり方～」も是非。1948年に軍隊を廃止。軍事予算を社会福祉に充て、国民の幸福度を最大化する道を選んだコスタリカの奇跡を追ったドキュメンタリー（89分）。どの市民上映会も盛況で、今年に入っても上映会が継続されています（3月10日、京都）。映画も一度行ってみませんか。

◇編集後記◇

2月17日～18日、第33回日本勤労者山岳連盟の総会に東京に行ってきました。総会には大阪から代議員として4名が出席、若い世代の会員を増やし、登山技術と組織を継承していく課題などが討議されました。討論で最も多かったのが会員の減少と高齢化についてでした。全国労山の会員の現状は、この一年で499名の減少で、60代以上の会員が半数を占めていると報告がありました。労山会員数は2000年頃のピーク（23779人）から減少を続けて2017年は19029人となりました。あと10年後のことを考えると、恐ろしいようなデータが待ち受けているようです。しかしながら、「登山学校を開いて着実に会員を増やしているクラブ」や「登山教室を通して若い会員とのつながりを広げている会」も見られ、いくつかの地方連盟からも未来があることも事実です。大阪においても若い世代の会員を増やし、登山活動を活性化していかなければ、と考えたのでした。（大西）



今月も各会より会報を送っていただきました。安治川山の会ニュース（安治川山の会）、やまなかま（泉州労山）、きたろうニュース（きたろうHC）、にしよど（西淀労山）、ぼんぽん山（高槻）、奈良県連ニュース滋賀県連ニュース、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、HCかざぐるま、京都労山、噴煙（鹿兒島労山）、兵庫労山会報、県連ニュース（和歌山労山）

編集・発行 入澤、大西秀、笠井、園、高橋、中井、中尾、服部、大西清
